



51st CRC Seminar

斎藤 美香 氏

独) 農研機構・東北農業研究センター
めん用小麦研究東北サブチーム

斎藤 美香氏は、本学農学研究科修士課程を平成 13 年に修了し、その後東北農業研究センターでコムギに関する研究を精力的に進めています。本セミナーではその成果を分かりやすくお話していただきますので、学生の皆さんも是非参加して下さい。

ゲノム情報を活用して美味しい 「うどん」用コムギを作るには?

～コムギにおける marker assisted selection (MAS) を利用した品種育成～

時間：2011 年 3 月 11 日 (金) 16:20～17:30

場所：連大棟 2 階 会議室

パンコムギ (*Triticum aestivum* L.) は、ABD ゲノムから成る異質六倍体植物であり、それぞれのゲノムに由来する同祖遺伝子が 3 重複している。また、そのゲノムサイズは 1.6×10^{10} bp とイネの約 40 倍の大きさである。そのため、イネやトウモロコシにならぶ 3 大穀物の一つでありながら、ゲノム解析や有用遺伝子の単離は上記作物に比べ遅れをとっている。しかし、そのような条件下においても品質や病害抵抗性等に関連する遺伝子や QTL が徐々に解明され、DNA マーカーとして品種育成に活用されている。本セミナーでは、「うどん」に適するコムギを選抜するための DNA マーカー開発を中心に、DNA マーカー育種や他作物のゲノム情報を活用したマーカー開発について紹介する。

問合せ：堤 賢一 (kentsu@iwate-u.ac.jp)